

精密工学会北陸信越支部 2011年度 商議員会議

日 時： 2011年5月21日(土), 15:00~16:00
場 所： 金沢大学角間キャンパス自然科学3号館3B216会議室

議 事：

[0] 成立確認

[1] 2011年度支部役員

資料1

[2] 2010年度事業報告および決算報告

◇ 議事録

資料2, 3, 4

◇ 事業報告(2011年2月本部提出)

資料5

◇ 決算報告(2011年3月本部提出)

資料6

[3] 2011年度事業計画および予算案

◇ 各県主催特別講演会・見学会

資料7

◇ 2011年度収支予算(2010年12月本部提出)

資料6

◇ 商議員選挙のお知らせ(11月)

◇ 支部総会のお知らせ(10~11月に石川県特別講演会と同日開催の予定)

※ 今年度は支部にて全国大会開催のため、支部学術講演会はありません。

[4] 予算縮小への対応策について

資料8

[5] 旅費規定について

資料9

[6] 表彰関係のお知らせ

資料10

[7] その他

北陸信越支部商議員数：32名 商議員会議成立に必要な人数：17名(過半数)
--



資料 1

■2011年度支部役員・支部選出本部役員

北陸信越支部個人会員名簿に記載の会員数(2010年10月現在)			
正会員	329名	名誉会員	7名
学生会員	学生会員:104名	永年会員	4名
賛助会員	14社	フェロー	7名

I. 支部役員

支部長	神田 一隆 (福井工業大学)		
副支部長	野村 俊 (富山県立大学)		
幹事	関 啓明 (金沢大学)	庶務幹事	
	浅川 直紀 (金沢大学)	会計幹事	
	加藤 秀治 (金沢工業大学)	監事	
	堀内 富雄 (長野工業高等専門学校)	長野県幹事	
	磯部 浩巳 (長岡技術科学大学)	新潟県幹事	
	前田 幸男 (富山県立大学)	富山県幹事	
	強力 真一 (福井県)	福井県幹事	
	活性化委員	古本 達明 (金沢大学)	
商議員 (2010~2011年度)			
氏名	勤務先・職名	氏名	勤務先・職名
岸 佐年	長野工業高等専門学校電子制御工学科・教授	野村 俊	富山県立大学工学部・教授
堀内 富雄	長野工業高等専門学校電子制御工学科・教授	前田 幸男	富山県立大学工学部・教授
深田 茂生	信州大学工学部・教授	野末 武	株式会社不二越開発本部
辺見 信彦	信州大学工学部・准教授	杉森 博	富山県工業技術センター機械システム課
松岡 浩仁	信州大学地域共同センター・准教授	西田 均	富山高等専門学校電気制御システム工学科・教授
山崎 隆夫	長野県工科短期大学校生産技術科・教授	笹木 亮	富山大学大学院理工学研究部・講師
中村 正幸	長野県工業技術総合センター製品科学部・部長	高野 登	富山大学大学院理工学研究部・助手
石黒 周司	長野県工業技術総合センター精密・電子技術部門	上田 隆司	金沢大学理工研究域・教授
小林 高弘	セイコーエプソン(株)生産技術センター・部長	関 啓明	金沢大学理工研究域・准教授
市川浩一郎	不二越機械工業(株)・代表取締役社長	田中隆太郎	金沢大学理工研究域・講師
磯部 浩巳	長岡技術科学大学・准教授	浅川 直紀	金沢大学理工研究域・准教授
川崎 一正	新潟大学地域共同研究センター・准教授	加藤 秀治	金沢工業大学工学部・教授
齋藤 博	新潟県工業技術総合研究所・研究主幹	坂谷 勝明	石川県工業試験場電子情報部・部長
津坂 英夫	ユニオンツール株式会社・技術統括部長	磯部 稔	高松機械工業株式会社技術部・部長
山田 隆一	長岡工業高等専門学校・教授	神田 一隆	福井工業大学工学部・教授
吉原 英雄	(財)にいがた産業創造機構・コーディネータ	強力 真一	福井県産業労働部 地域産業・技術振興課 産学官連携推進室 室長

II. 本部役員

理事	上田 隆司 (金沢大学) 神田 一隆 (福井工業大学)		
評議員	杉本 公一 (信州大学)	福島 米春 (セイコーエプソン(株))	
	岩部 洋育 (新潟大学)	尾坂 一 (長野県工業技術総合センター)	
	小林 一也 (富山県立大学)	中河 清 (㈱不二越)	
	新谷 一博 (金沢工業大学)		
	山田 泰弘 (福井大学)		
事業部会/学術交流委員会委員			
出版部会/会誌編集委員会委員	岩部 洋育 (新潟大学)		
広報・情報部会委員	岡田 将人 (金沢大学)		

■歴代支部役員

役員\年度	2004 (H16)	2005 (H17)	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)
支部長	秋山 伸幸 (新潟)	石川 憲一 (石川)	小泉 邦雄 (富山)	松尾 光恭 (福井)	川久保 洋一 (長野)	柳 和久 (新潟)	上田 隆司 (石川)	神田 一隆 (福井)	(富山)	(長野)
副支部長	石川 憲一 (石川)	小泉 邦雄 (富山)	松尾 光恭 (福井)	川久保 洋一 (長野)	柳 和久 (新潟)	上田 隆司 (石川)	神田 一隆 (福井)	野村 俊 (富山)	(長野)	(新潟)
幹事	庶務	山田 啓司	細川 晃	細川 晃	細川 晃	浅川 直紀	浅川 直紀	関 啓明	関 啓明	
	会計	細川 晃	関 啓明	浅川 直紀	関 啓明	細川 晃	関 啓明	田中 隆太郎	浅川 直紀	
	監事					細川 晃	加藤 秀治	加藤 秀治		
	長野	辺見 信彦	辺見 信彦	辺見 信彦	辺見 信彦	中村 正行	中村 正行	堀内 富雄	堀内 富雄	
	新潟	明田川 正人	明田川 正人	川崎 一正	川崎 一正	山田 隆一	山田 隆一	磯部 浩巳	磯部 浩巳	
	富山	森田 昇	森田 昇	小林 一也	小林 一也	田代 亮造	田代 亮造	前田 幸男	前田 幸男	
福井	白石 光信	白石 光信	山田 泰弘	山田 泰弘	本田 知己	本田 知己	強力 真一	強力 真一		
理事	上田 隆司 (石川)		岸 佐年 (長野)		小泉邦雄 (富山)		上田 隆司 (石川)		(長野)	
	松尾 光恭 (福井)		新谷 一博 (石川)		柳 和久 (新潟)		神田 一隆 (福井)		(富山)	
評議員	岸 佐年 岩部 洋育 井上 誠 森田 昇 野村 俊 安達 正明 岩井 壽郎		深田 茂生 横山 和宏 村井 史剛 中村 敬 天谷 浩一		磯井 稔/深田茂生 田村武夫 飛弾野文英/前田幸男 新谷一博 栗濃輪武久		福島米春/中河清 杉本公一/尾坂一 岩部洋育 小林一也 新谷一博 山田泰弘			
出版部会/校閲委員会委員 (任期3年)	山田 泰弘 (福井)	深田 茂生 (長野)			神谷 好承 (石川)		小原 治樹 (富山)			
事業部会/学術交流委員会委員 (任期2年)	小林 一也 (富山)	小林 一也 (富山)								
広報・情報部会/広報委員会・情報化委員会委員 (任期2年)	浅川 直紀 (石川)	浅川 直紀 (石川)	神谷 和秀 (富山)		神谷 和秀 (富山)		岡田 将人 (福井/石川)			
出版部会/会誌編集委員会委員 (任期2年)	東海支部より	東海支部より	細川 晃 (石川)		東海支部より		岩部 洋育 (新潟)			
活性化委員 (2001年度より支部表彰関係担当)	細川 晃 (金沢大学)	田中 隆太郎 (金沢大学)	田中 隆太郎 (金沢大学)	田中 隆太郎 (金沢大学)	田中 隆太郎 (金沢大学)	吉本 達也 (金沢大学)	吉本 達也 (金沢大学)	吉本 達也 (金沢大学)		
備考	評議員7名 商議員改		評議員5名 商議員改		評議員7名 商議員改		評議員8名 商議員改		評議員8名 商議員改	商議員改

■フェロー

石川憲一 (金沢工業大), 上田隆司 (金沢大), 賀勢晋司 (信州大), 梶田正美, 市川浩一郎 (不二越機械工業), 飛弾野文英, 小泉邦雄 (富山大)

■アフィリエイト

鈴木伸哉 (富山高専), 渡邊英人 (ユニオンツール), 岡田将人 (金沢大), 川堰宜隆 (富山県工業技術センター), 田中秀岳 (長岡技科大), 千徳英介 (福井大), 田中隆太郎 (金沢大), 古本達明 (金沢大), 細野高史 (信州大), 田辺里枝 (長岡技科大)

■賛助会員

- 賛助特級A: セイコーエプソン
- 賛助1級: 不二越機械工業
- 賛助2級: 不二越, スギノマシン, 高松機械工業, 津田駒工業, コマツNTC, 東振精機, 中村留精密工業, マコー, ハーモニック・ドライブ・システムズ
- 賛助Web級: ハーモニック・エイディ, NSPM, アドテックエンジニアリング

精密工学会北陸信越支部 2010年度 第1回幹事会議事録

日 時： 平成22年5月22日(土), 12:00~15:00 (12:00より昼食)

場 所： 金沢大学角間キャンパス自然科学3号館3B216会議室

(以下文中は敬称略)

出席者：12名

上田隆司(支部長：金沢大)／神田一隆(副支部長：福井工業大)／関啓明(庶務幹事：金沢大)／加藤秀治(監事：金沢工大)／磯部浩巳(新潟県幹事：長岡技科大)／古本達明(活性化委員：金沢大)／岡田将人(広報・情報委員：福井高専)／浅川直紀(前庶務幹事：金沢大)／新谷一博(評議員：金沢工大)／杉本公一(評議員：信州大)／岩部洋育(評議員：新潟大)／細川晃(大会実行委員会庶務幹事：金沢大)

欠席者：10名

柳和久(前支部長：長岡技科大)／田中隆太郎(会計：金沢大)／堀内富雄(長野県幹事：長野高専)／前田幸男(富山県幹事：富山県立大)／強力真一(福井県幹事：福井県)／福島米春(評議員：セイコーエプソン)／中河清(評議員：不二越)／小林一也(評議員：富山県立大)／尾坂一(評議員：長野県工技セ)／山田泰弘(評議員：福井大)

議 事：

※新支部長から議事に先立ち挨拶があった。

[1] 2010年度役員

- ・支部役員の確認がなされた。以下の訂正の指摘があった。
商議員の松岡浩仁氏の勤務先：信州大学地域共同センター
会誌編集委員会委員：岩部洋育(新潟大学)
歴代支部役員 of 2010年度各県幹事欄に前頁の氏名を記入
- ・来年度の副支部長は順番からすると富山県から選出する。

[2] 2009年度事業報告および決算報告

- ・幹事会議事録(庶務幹事)
確認した。
- ・事業報告(前庶務幹事)
通常の行事に加え、数多くの周年事業が行われたことが報告された。
- ・決算報告(前年度会計)
周年事業により多額の収支があった。
200万円の引当金取崩は主に設計コンテスト用であり、引当金残額は200万円強に減少した。
決算を承認した。

[3] 各種会議報告

- ・支部長会議報告(支部長)
支部長会議でのトピックスが説明された。
公益法人化への移行が進んでいることが説明された。
- ・理事会報告(理事)
支部の運営費が減少することが報告された(98.5万円)。
埼玉大学での春季大会では、参加者が増えたが主に学生の参加者であった。
同大会のベストプレゼンテーション賞で、支部関係では長岡技科大の学生が選ばれた。
賛助会員が退会するときには、休会の制度を利用するようにとのアナウンスがあった。
- ・広報・情報委員会報告(広報・情報委員)

賛助会員勧誘の策として、Web級（会費5万円/年，中小企業向け）がお勧めである。

賛助会員を勧誘するために、学会の入会パンフレットを庶務幹事が取り寄せて、幹事会メンバー等に配布することになった。（後日、本部に問い合わせた所、公益法人移行中で残部が少なく、ホームページのPDFファイルでの対応になった。）

[4] 2010年度事業計画および予算案

・支部総会・学術講演会（新潟県幹事）

1日目はイベントにより場所が変わるが、受付や案内に工夫を要する。

1日目の移動のため、予算としてはバス代やタクシー代が計上されている。

懇親会費はホテルで行うため、昨年度より多めの予算となっている。

学術講演会の発表時間は討論を十分行うため、発表13分，討論7分とする。

USBメモリの講演論文集を多くの人が当日印刷するのは大変であるため、事前に講演論文集をWebページからダウンロードできるようにする。申込時にそのパスワードを送る。

Webページへの協賛企業の広告掲載は、大学のサーバ使用上問題がないかどうか確認する。

昨年度の支部技術賞の企業は、無料で広告を掲載する。

支部奨励賞受賞者は一般セッション側の時間枠で発表を行ってもらう。

会告案の開催日と講演時間の訂正。

・各県主催特別講演会・見学会等（庶務幹事）

各県幹事から連絡のあった特別講演会や見学会の情報を共有した。

石川県行事として、金沢工大で行われる講演会に協賛することになった（予算はなし）。

必ず会告を学会誌に出して欲しい（2ヵ月前の25日締切までに本部に連絡，庶務幹事にも転送，支部ホームページにも掲載する）。

各県の予算は基本10万円/年（支部長所在地は15万円/年）。超える場合は幹事会承認が必要。

企画が確定次第、早目に庶務幹事に連絡する。

・2010年度収支予算（前会計幹事）

周年行事がなくなったため、通常の予算に戻った。

予算を承認した。

ただし、本部からの運営費が当初予定より減少することが分かった。今年度は繰越金でカバーできるが、長い目で見れば、今後は支出を節約する必要がある。

[5] 公益法人化

・公益法人移行に伴う支部規則の廃止と新規則（庶務幹事）

公益法人移行に伴って、本部で各支部共通の支部運営規定が作られたため、「精密工学会北陸信越支部規則」及び「支部催事引当金取扱規則」を廃止し，新しい「精密工学会支部運営規定」及び「支部活動費積立資産取扱規則」を支部として追認することを確認した。（支部臨時総会及び商議員会議で承認した。）

新規則で大きく変更された次の2点について特に対処が必要である。

商議員会議が最高議決機関となり，支部総会は会員への報告の場となる。

商議員の任期が1年に変更された（次の商議員から対応）。

新規則では，従来の規定からなくなった項目もあるが，それほど重要なものではなく，当面，支部の細則は作らない。

商議員の人数も上限（理事会によると49人）の規定しかないが，従来の32名を基準にして柔軟に対応する（少し増えてもよい）。

・講演会等における謝礼・旅費の源泉徴収手続き（庶務幹事）

本部からの指示に従い，今後は，源泉徴収の手続きを厳格に行うことを確認した。

各県幹事等の行事担当者は，予め，予算内訳を会計幹事に提出する。

[6] 2011年度全国（秋季）大会@金沢大学（実行委員会庶務幹事）

支部臨時総会及び商議員会議にて報告，協力依頼。

[7] 2010年度各賞について(支部活性化委員)

・各賞の募集案内

本部と支部の技術賞、奨励賞について募集の案内があった。

支部の技術賞については、例年より締切を遅らせたので、応募してほしい。

・支部の奨励賞規定の変更について

候補者を増やすため、協議の結果、次のような内容に規定を変更し、来年度より適用することにした。なお、正式には次回の商議員会議での承認が必要。

「筆頭著者」以外でも受賞候補者として認める。

ただし、その場合には、成果について主体的に行ったことを示す、筆頭著者の推薦書の添付を義務付ける。

なお、1つの論文は1回限りの受賞とする。

・アフィリエイトの募集

人数が増えてきたため、次第に認定が厳しくなっていることが報告された。

支部長推薦できるので、できるだけ支部へ連絡してほしい。

[8] 支部メーリングリストの管理（広報・情報委員）

委員の交替により、メーリングリストを移す予定であったが、新委員の所ではそれができず、暫定措置として、旧委員が管理を継続していることが報告された。

現在、本部に支部のメーリングリストの作成を依頼中である。各支部ごとにサーバができており、対応できる可能性もある。本部で作成が無理な場合は、今後検討する必要がある。

[9] その他

次回、幹事会は、12月11日（土）直江津にて開催予定。（欠席者に要確認）

以上

精密工学会北陸信越支部 2010年度 第2回幹事会 議事録

日 時： 平成22年12月11日(土), 12:00~16:00 (12:00より昼食)

場 所： ホテルハイマート 〒942-0001 新潟県上越市中央1-2-3/JR直江津駅前

(以下文中は敬称略)

出席者：10名

上田隆司(支部長：金沢大)／神田一隆(副支部長：福井工業大)／関啓明(庶務幹事：金沢大)／加藤秀治(監事：金沢工大)／田中隆太郎(会計：金沢大)／堀内富雄(長野県幹事：長野高専)／前田幸男(富山県幹事：富山県立大)／強力真一(福井県幹事：福井県)／柳和久(新潟県幹事代理：長岡技科大)／古本達明(活性化委員：金沢大)

欠席者：1名

岡田将人(広報・情報委員：福井高専)

議 事：

※支部長から議事に先立ち挨拶があった。

[0] 第1回幹事会および臨時支部総会・商議員会議の議事録確認(庶務幹事)

- ・議事録を確認した。

[1] 2011年度役員(庶務幹事)

- ・来年度の各役員案

来年度の幹事会メンバーを承認した。今年度との変更は、支部長：神田一隆(福井工大)、副支部長：野村俊(富山県立大)、会計：浅川直紀(金沢大)。それ以外は、今年度と同じメンバー。

2012年の副支部長の順番は長野県。

- ・商議員選挙について

新しい支部規則により、来年度から毎年、商議員選挙を行うことになる。

来年度の商議員選挙にむけて、来年夏頃までに、候補者を検討するよう各県幹事に依頼があった。

なお、幹事会メンバー候補は商議員に入れておく必要がある。

[2] 2010年度事業報告および決算(暫定)報告

- ・事業報告(各県幹事および庶務幹事)

各県から今年度行われた行事について報告があった。

富山県12月開催予定の製作教室については、準備期間が少なく、応募者が0名であったため、1月に場所を変えて再募集している旨が報告された。

福井県については、1月に県との協賛行事を設定する可能性があることが報告された。

- ・支部学術講演会報告(新潟県幹事)

11月開催の支部学術講演会が盛況のうちに終了したこと、また、その決算が報告された。

不発表の講演が1件あったが、現状では特にペナルティ等は課さない。

ベストプレゼンテーション賞の候補者12名を追認した。賞状は発送済みで、支部ホームページにも掲載する。

論文集をUSBにしたことは、特に問題も生じず、コストダウンにつながった。

予定よりも支出が少なかった理由として、懇親会が前日であったため参加費の安い学生の参加が少なかったこと、準備日のアルバイト代を払わなかったこと(本来は払ってもよい)、USB(前述)等があげられた。

- ・決算(暫定)報告(会計幹事)

正式決算は1月末であるが、現状の暫定決算(今回の幹事会費用等は入っていない)が報告された。

本部から支給される運営金がかかり減少し、支部の運営が厳しくなっている。
振込などをインターネットで行うようになり、使用料が2100円／月かかるようになった。
当期収支差額は-10万程度になる予定。
引当金は200万円程度。来年度の全国大会開催でさらに減少する可能性あり。

[3] 各種会議報告

・理事会報告(理事)

第2、3、4回の理事会の報告があった。主な報告は次の通り。

全国大会で春は国際シンポジウムを入れる必要があるが、秋は任意とのことで、金沢の大会ではならない方向で検討する。

会誌に毎月付属しているCDROMが廃止され、年1回DVDROMが添付される。

二重投稿の問題があった。

学会プログラムのWebページのアクセスが多いため、このページにバナー広告を募集する。

来年度のICPEは横浜、ASPENは香港。

公益法人化では、会員限定のサービス制限はできない。その代わりに、例えば、学会発表の参加費を、非会員は1.5～2倍程度に設定する。

名古屋大会では、発表件数がすくなく、収支は、結局黒字となった。

学会の会費収入が落ちているため、コスト削減をしている。

・支部本部懇談会報告(支部長および庶務幹事)

内容はほとんど理事会報告と同じ。

学会案内パンフレットがマイナーチェンジされた。大幅な改訂は公益法人化後。

事業仕訳の影響で、学術講演会講演論文集のJSTAGE公開が終了する。

公益法人の認可が下りた時点で決算を行う必要があるが、現在まだ連絡なし。

・広報・情報委員会報告(広報・情報委員)

広報・情報委員が欠席のため、報告資料を確認した。

支部のメーリングリストは、本部で管理されることになったことが報告された。

[4] 2011年度事業計画および予算案

・事業計画案(2010年12月本部提出)(庶務幹事)

各県行事、善光寺バレー・ミニ学会等を例年通り開催する案が報告され、承認された。

なお、全国大会開催のため、支部学術講演会は開催しない。

・全国大会の開催と準備について(支部長)

全国大会の準備状況について報告があった。

11月に第3回実行委員会が行われた。日程、キャッチコピー、特別講演などが決定された。前回の名古屋開催についての調査が報告された。予算や仕事の分担が検討された。次回の実行委員会は3月末予定。

本部より、500件以上講演発表を集めるよう要望が来ている。

節約型の運営を目指している。

各県幹事に、企業展示の勧誘の依頼があった。

・支部学術講演会の不開催の確認と次回開催について

2011年度は全国大会開催のため、支部学術講演会は開催しないことを再確認した。

その後の開催予定については、機械学会の大会も考慮して、2012年度は長野県開催、2013年度は石川県開催の方向で調整することにした。また、今後、担当県で、大学や高専などの開催場所を検討する。

・幹事会／商議員会議／支部総会の開催について

収容人数、予算等を考慮して、来年度の商議員会議は、5月に金沢大学にて開催することにした。同日、幹事会も開催。

支部総会(技術賞等の表彰／記念講演を含む)は、本来、支部学術講演会にて開催するが、来年度は支部学術講演会が行われないため、臨時に、次のような方向で調整することにした。

支部総会を石川県の特別講演会と同日開催とする。できれば、全国大会の反省会も兼ねるとよい。
このことから、開催時期は10～11月頃。

- ・収支予算案(2010年12月本部提出)(会計幹事)
全国大会の収支を含めた訂正版が配布された。
来年度の収支予算案を承認した。
本部から支給される運営金の予定額は今年度並み。
秋季大会に使用するため、引当金は残り50万円程度になる予定。
商議員選挙があるため、印刷費が増える。支部学術講演会の費用はなし。
本部が銀行口座を把握しているため、残高証明発行手数料は不要ではとの指摘があった。
- ・予算の縮小への対応策について
本部からの運営費減少に伴い、予算を縮小するのはやむを得ないことを認識した。
賛助会員の退会や降級(例えば、セイコーエプソン:特AA→特A)が相次いでいることから、来年度以降、運営費がさらに減少する可能性がある。
意見交換を行った結果、次の項目について、次回幹事会でルールを見直すことにした。
支部学術講演会の学生登壇者補助～博士課程の学生は不要。距離によらず一律5000円にする。
特別講演会のうち、支部長所在地は特別扱い(15万円)していたが、他と同じ扱いにする。
各県行事への10万円補助はできるかぎりキープする。
善光寺バレー・ミニ学会については必要経費を確認する(長野県幹事)。
- ・源泉徴収にかかわる支部旅費規定について(会計幹事)
無報酬の会議等の旅費を支給する場合、旅費規定があれば、源泉徴収しなくてよいが、現状では、支部に明確な旅費規定はない。
本部の旅費規定を調べ、できればそれに準ずることにしたい。とりあえず、庶務幹事、会計幹事に
て調査することにした。次回幹事会で、再審議する。

[5] 2010年度各賞について

- ・支部技術賞／奨励賞(活性化委員)
今年度の支部技術賞の選考の経緯や結果について報告された。関連受賞歴の欄が無記入でも、過去に同様の装置での受賞がある場合には、それとの差を調べて明らかにするよう注意があった。
周囲に、支部奨励賞や技術賞に該当する人がいる場合は、応募を勧めてほしい。
- ・フェロー／アフィリエイトの支部推薦(庶務幹事)
今年度、フェロー1名、アフィリエイト2名を支部から推薦したとの事後報告がなされた。
現アフィリエイトより、アフィリエイト候補者は博士課程の学生でもよいとの指摘があった。

[6] 先進技術開発懇談会について(新潟県幹事)

- ・支部の予算状況等も勘案して、来年度の開催は見合わせることにした。

[7] ハーモニックドライブシステムズ社の国際シンポジウム協賛(長野県幹事)

- ・会社主催ではあるが、学術的な内容であり、過去にも協賛実績があり、参加費等も特に問題がないことから、支部として協賛を承認した。
- ・折角の内容なので、学会誌に会告を出すことにした。

[8] その他

- ・次回、幹事会は、2011年5月21日(土)金沢大学にて開催予定。商議員会議も同日開催。

以上

精密工学会北陸信越支部 2010年度 臨時総会及び商議員会議議事録

日時： 平成22年5月22日(土), 15:00~16:00
場所： 金沢大学角間キャンパス自然科学3号館3B216会議室

(以下文中は敬称略)

議 事：

臨時総会

[0] 総会成立確認／支部長挨拶

- ・出席者16人, 委任状138人, 合計154人より, 支部の正会員数322人の1/3以上(108人以上)であり, 総会が成立することが確認された。
- ・新支部長より議事に先立ち挨拶があった。

[1] 公益法人への移行の説明

- ・前庶務幹事より, 社団法人から公益法人へ学会の移行が進んでいることやそれらの違いについて説明があった。

[2] 支部規則及び支部催事引当金規則の廃止

- ・公益法人化に伴い, 本部で各支部共通の支部運営規定が作られ, その新规定に移行するため, 従来の北陸信越支部の規則(「精密工学会北陸信越支部規則」及び「支部催事引当金取扱規則」)を廃止することを承認した。

商議員会議

[3] 成立確認

- ・出席者8人, 委任状18人, 合計26人より, 支部の商議員数32人の過半数(17人以上)であり, 商議員会議が成立することが確認された。

[4] 新しい支部運営規定及び支部活動費積立資産取扱規則の追認

- ・公益法人化に伴い, 本部で新しく各支部共通に作られた, 「精密工学会支部運営規定」及び「支部活動費積立資産取扱規則」を北陸信越支部として追認した。

[5] 2010年度役員

- ・今年度の支部役員の確認がなされた。以下の訂正の指摘があった。
商議員の松岡浩仁氏の勤務先：信州大学地域共同センター
会誌編集委員会委員：岩部洋育(新潟大学)
歴代支部役員の2010年度各県幹事欄に前頁の氏名を記入

[6] 2009年度事業報告および決算報告

- ・幹事会議事録
確認した。
- ・事業報告
通常の行事に加え, 数多くの周年事業が行われたことが報告された。
- ・決算報告
周年事業により収支とも例年より多額であったことが報告された。
200万円の引当金取崩は周年事業にあてられ, 引当金残額は200万円強に減少した。

決算を承認した。

[7] 2010年度事業計画および予算案

・支部総会・学術講演会・各県主催特別講演会・見学会

今年度の支部総会・学術講演会が11月に長岡技術科学大学にて行われることが報告された。例年と異なり、2日のスケジュールである。会告案の開催日（11月5,6日）と講演時間（発表13分, 討論7分）の訂正があった。

現時点で予定されている各県の特別講演会や見学会の報告があった。今後、企画が増える予定。

・2010年度収支予算

周年行事がなくなったため、通常の前算に戻った。

予算を承認した。

ただし、本部からの運営費が当初予定より減少することが分かった。今年度は繰越金でカバーできるが、長い目で見れば、今後は支出を節約する必要がある。

[8] その他

・2011年度の全国（秋季）大会が金沢大学で開催されることが、実行委員会庶務幹事より報告され、協力を依頼された。

・本部と支部の技術賞や奨励賞について、支部活性化委員より応募の勧誘があった。また、支部奨励賞の規定が変更される（次回商議員会議で審議）予定とのアナウンスがあった。

以上

資料5

2010年度北陸信越支部事業報告 (2010/2/1 ~ 2011/1/31)

北陸信越支部庶務幹事 関啓明 (金沢大学)

1. 支部会員数の変遷

下表は北陸信越支部の近年の会員数の推移である。会員数はほぼ変わっていないが、経済状況の影響で賛助会員の退会や降級があり、厳しい状況である。

北陸信越支部会員数の近年の推移

	'06/08	'07/10	'08/12	'09/11	'10/10
正会員	344	339	342	335	329
学生会員	94	70	104	99	104
賛助会員	13	17	16	13	14
名誉会員	6	6	8	7	7
フェロー	2	5	3	5	6
永年会員	4	4	3	3	4

2. 支部役員

2010年度の支部幹事会メンバーは以下のとおりである。

・支部役員

支部長	上田隆司 (金沢大学)	
副支部長	神田一隆 (福井工業大学)	
幹事	関啓明 (金沢大学)	庶務幹事
	田中隆太郎 (金沢大学)	会計幹事
	加藤秀治 (金沢工業大学)	監事
	堀内富雄 (長野高専)	長野県幹事
	磯部浩巳 (長岡技術科学大学)	新潟県幹事
	前田幸男 (富山県立大学)	富山県幹事
	強力真一 (福井県)	福井県幹事

・本部役員

理事	上田隆司 (金沢大学)
	神田一隆 (福井工業大学)

3. 2010年度支部活動

周年事業も終了し、通常の学術講演会、ならびに、各県主催の講演会・見学会などが行われた。2010年度の活動は以下のとおりである。

3.1 支部総会・学術講演会

開催日：2010年11月6日(土)

会場：長岡技術科学大学

協賛：日本機械学会北陸信越支部, NPO長岡産業活性化協会, 長岡工業高等専門学校技術協力会, 長岡技術者協会

後援：長岡技術科学大学

3.2 各県企画特別講演会・討論会・見学会等

(1) 特別講演会 (長野)

期日：平成22年7月16日 (金)

会場：信州大学 工学部 (市民公開)

演題：「商品としての自動車開発。人と技術のコラボレーション」

講師：富士重工業 (株) スバル商品企画本部プロジェクトゼネラルマネージャー 竹内 明英 氏

(2) 特別講演会 (長野)

期日：平成22年9月27日(月)

共催：日本機械学会北陸信越支部

会場：長野工業高等専門学校

題目：「エコクイズによる学習」

講師：山梨大学工学部准教授 島崎 洋一 氏

(3) 特別講演会 (新潟)

期日：平成22年11月5日 (金)

主催：にいがたナノテク研究会 (支部は共催)

後援：(社)新潟県電子機械工業会, NPO長岡産業活性化協会, 新潟大学地域共同研究センター

会場：NICOテクノプラザ(長岡市)

演題：「レーザ微細加工」

講師：埼玉大学理工学研究科教授 池野 順一 氏

(4) 工場見学会 (新潟)

期日：平成22年11月5日 (金)

見学先：(株)太陽工機 (長岡市)

(5) シンポジウム (新潟)

先進技術開発懇談会「ものづくり技術者育成のあり方」

期日：平成22年11月6日(土)

主催：日本機械学会北陸信越支部と共同で主催

共催：長岡工業高等専門学校技術協力会

後援：長岡産業活性化協会, 長岡技術者協会

会場：長岡技術科学大学 講義棟

実施内容：

基調講演 「機械を設計するセンスと力」

幸田盛堂 氏 日本機械学会・精密工学会フェロー

パネルディスカッション：

金田 徹 氏 関東学院大

中村 多喜夫 氏 オーエム製作所

古澤 友祥 氏 新潟職業能力開発短期大学校

吉野 正信 氏 長岡工業高等専門学校

幸田 盛堂 氏 日本機械学会・精密工学会フェロー

ファシリテータ：柳 和久 氏 長岡技術科学大学

(6) 特別講演会 (新潟)

期日：平成22年11月10日 (水)
 共催：新潟大学地域共同研究センター
 会場：新潟大学駅南キャンパス
 演題：「随想 - 私の切削研究」
 講師：東洋大学名誉教授 上原 邦雄 氏 (名誉会員)

(7) 特別講演会 (長野)

「善光寺バレーミニ学会」
 共催：(財)長野県テクノ財団善光寺バレー地域センター、
 長野高専技術振興会
 期日：平成22年11月24日 (水)
 会場：長野高専 地域共同テクノセンター
 次第
 * 「組み込みソフトウェア品質改善のための文書診断法」
 長野高専地域共同テクノセンター助教 藤田 悠
 * 「超音波振動を用いたガラス材料の小径穴加工」
 長野高専電子制御工学科教授 堀内 富雄
 * 「産官学連携で取り組む微生物機能を用いた環境保全技術の開発について」
 長野高専 環境都市工学科准教授 島 俊郎
 * 「触媒燃焼用ワイヤメッシュ触媒の開発とその適用事例」
 ラーチマネージメントリサーチ代表 村岡 正一
 * 「慢性閉塞性肺疾患(C. O. P. D.)の在宅療法における アクシオンプランwebシステムの有用性」
 バイナリス代表 西山 隆也
 * 「信州クリーンエネルギー創造への取り組み」
 (株) IHIシバウラ研究開発室長 高橋 浩
 * 「モーションセンサの最新活用例」
 マイクロストーン(株)代表取締役 白鳥 典彦
 * 「燃費競技における地域交流と電子制御燃料噴射装置の開発」
 信州大学教育学部附属長野中学校教諭 箕田 大輔
 長野高専機械工学科准教授 岡田 学

○特別講演「江戸時代の数学—算額の調査・復元から」

長岡高専一般教育科教授 涌田和芳
 長岡高専電子制御工学科准教授 外川一仁

(8) 特別講演会 (石川)

「日本が誇る最先端加工技術」
 期日：平成22年11月18日 (木)
 共催：日本機械学会北陸信越支部，日本材料学会北陸信越支部
 会場：金沢大学角間キャンパス レクチャーホール
 講師及び演題：
 摂南大学 工学部長 森脇 俊道氏 「超精密加工の動向」
 住友電工ハードメタル(株) 常務取締役 後藤 光宏氏 「最新の切削工具材料開発について (加工事例を交えて)」

(9) 特別講演会 (新潟)

「精密加工における周辺技術」
 期日：平成22年11月26日 (金)
 共催：長岡技術科学大学工作センター
 後援：長岡産業活性化協会，長岡技術者協会
 会場：長岡技術科学大学 講義棟
 講演題目①「ステンレス鋼をはじめとする難削材へのセミドライ加工の適用」

フジBC技研 (株) 技術チーム 太田昭夫氏
 講演題目②「精密加工の観察法」 (株) フォトロン
 イメージング事業部 元木 修一 氏，三原 新氏

(10) 特別講演会 (富山)

「精密切削加工技術の最新動向と応用」
 期日：平成22年11月24日 (水)
 主催：富山県工業技術センター (支部は共催)
 会場：富山県工業技術センター中央研究所 技術開発館
 内容：
 「富山県ものづくり研究開発センター (仮称) について」
 「マイクロ流体チップの微細加工」
 富山県立大学教授 前田 幸男 氏
 「超精密5軸ナノ加工機ROBONANO α -0iBと適用事例について」
 ファナック(株) 河合 知彦 氏
 「精密マシニングセンター (Z μ 3500) とその加工事例」
 コマツNTC(株) 板橋 久希 氏

(11) 製作教室 (富山)

「レオナルド・ダ・ヴィンチのベアリングを作ろう！」
 期日：平成23年1月23日 (日)
 共催：富山県立大学
 会場：富山県子どもみらい館 トイギャラリー
 講師：富山県立大学 神谷和秀氏，高橋雄貴氏
 対象者：小学生
 内容：レオナルド・ダ・ヴィンチの手稿から復元した木工模型の中から「ピボットベアリング」のキット (非売品) を組み立てる。

4. 支部表彰

2010年度の支部表彰者は以下の通り。受賞者は支部総会にて表彰するとともに，受賞記念講演を実施した。

<2010年度支部技術賞>

中村留精密工業 (株) (石川)

「量産対応型複合加工機Super NTJXの開発」

<2010年度支部奨励賞>

応募者なし

5. おわりに

2011年度には全国大会が北陸信越支部 (会場は金沢大学) で行われる。実行委員会を中心にその準備を進めたい。

2010年度(平成22年度)収支計算書

2010年2月1日から2011年1月31日まで

収 入		支 出	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
支部活動費受入金(本部)	1,015,000	事業費支出	1,508,666
支部活動運営費	985,000	事業人件費	92,000
地方講演補助金	30,000	業務委託費	0
秋季大会準備金		学術講演資料・出版物費	114,400
学術講演会事業収入	278,000	研究発表会・講演会・講習会費	691,949
学術講演会(参加費、資料代)	161,000	見学会・セミナー費	0
見学会・セミナー(会費等)	0	懇親会費	179,595
懇親会参加費	117,000	講師謝金	0
協賛金(他学会等)		地域活動費	84,000
秋季大会収益金		調査・研究費	0
その他		旅費・交通費	197,500
特別事業収入	0	印刷・通信費	55,983
支部周年事業：学術講演会・講習会・見学会等収入		消耗品費	7,343
周年事業：懇親会参加費		表彰費	39,066
周年事業：その他		什器・備品費	25,200
国際会議		会告掲載料	0
その他		支払手数料	21,630
補助金等収入	0	雑費	
受入補助金		秋季大会費	
受入助成金		秋季大会費準備金返金	
寄附金		特別事業費支出	0
雑収入	636	周年事業：学術講演会・講習会・見学会等	
受取利息	636	周年事業：講師謝礼	
その他		周年事業：懇親会参加費	
特定資産取崩収入	2,188,217	周年事業：その他	
引当資産取崩収入	2,188,217	国際会議	
		その他	
		管理費	1,050
		総会費	
		残高証明発行手数料	1,050
		繰入金支出(本部一般会計へ預入)	1,888,217
当期収入合計(A)	3,481,853	当期支出合計(C)	3,397,933
前期繰越収支差額	434,081	当期収支差額(A-C)	83,920
収入合計(B)	3,915,934	次期繰越収支差額(B-C)	518,001

* 前期繰越収支差額には前年の次期繰越収支差額を記載します。

*補助金等収入がありましたら必ず下記の内訳をご記入下さい。

補助金等の名称：

交付者：

交付金額：

2011/1/31現在

社団法人 精密工学会
北陸信越支部 御中

〒102-0073
東京都千代田区九段北1-5-9
九段誠和ビル2F
社団法人 精密工学会
財務委員長 小橋 隆

支部活動費積立資産期末預り証

2010年度決算期末において貴支部より、下記の通り本部会計にてお預かりしています。

¥ 1,888,217

預入内訳

年度	預入額	取崩額	残高
2010年度	1,888,217	0	1,888,217

預り金管理口座
みずほ銀行：九段支店
社団法人 精密工学会 支部口

監査報告書

社団法人 精密工学会

北陸信越支部

支部長 上田 隆司 殿

2011年2月2日

社団法人 精密工学会
北陸信越支部

監事

加藤 秀彦



私達は、2010年2月1日から2011年1月31日までの会計年度の業務執行状況及び財務諸表ならびに関係諸帳票について監査しました結果、適法かつ正確であることを認めます。

2011年度（平成23年度）収支予算書

2011年2月1日から2012年1月31日まで

収 入		支 出	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
支部活動費受入金（本部）	1,785,000	事業費支出	17,815,000
支部活動運営費	985,000	事業人件費	20,000
地方講演補助金	0	業務委託費	0
秋季大会準備金	800,000	学術講演資料・出版物費	0
学術講演会事業収入	14,500,000	研究発表会・講演会・講習会費	700,000
学術講演会（参加費、資料代）		見学会・セミナー費	150,000
見学会・セミナー（会費等）		懇親会費	0
懇親会参加費		講師謝金	100,000
協賛金（他学会等）		地域活動費	0
秋季大会収益金	14,500,000	調査・研究費	0
その他		旅費・交通費	250,000
特別事業収入	0	印刷・通信費	150,000
75周年記念事業補助金（本部）		消耗品費	5,000
周年事業：学術講演会・講習会・見学会等収入		表彰費	100,000
周年事業：懇親会参加費		什器・備品費	0
周年事業：その他		会告掲載料	0
国際会議		支払手数料	40,000
その他		雑費	
補助金等収入	600	秋季大会費	15,500,000
受入補助金	600	秋季大会費準備金（本部へ返金）	800,000
受入助成金	600	特別事業費支出	0
寄附金		周年事業：学術講演会・講習会・見学会等	
雑収入	0	周年事業：講師謝礼	
受取利息		周年事業：懇親会参加費	
その他		周年事業：その他	
繰入金収入（本部会計より）	1,400,000	国際会議	
当期収入合計（A）	17,685,600	その他	
前期繰越収支差額	518,001	管理費	525
収入合計（B）	18,203,601	総会費	
		残高証明発行手数料	525
		繰入金支出（本部会計へ）	0
		当期支出合計（C）	17,815,525
		当期収支差額（A-C）	▲ 129,925
		次期繰越収支差額（B-C）	388,076

資料7

■2011年度各県主催特別講演会・見学会等

長野

○製作教室「親子で作ろう！へび型ロボット」

日時：8月6日（土）10時00分～15時00分 ※変更の可能性

会場：

内容：リンク機構を用いたへび型ロボットを製作する（非売品）.

対象：小学3年生～中学3年生，保護者（小学生は保護者同伴）

定員：15名（保護者含まず）

指導：国立長野工業高等専門学校 堀内富雄氏，岡田学氏

○特別講演会

日時：9月

テーマ：「超精密技術とバイオメカニクス（仮題）」

講師：2名（未定） 京都大学 井上康博氏，金沢大学 宮崎祐介氏

会場：信州大学 工学部

共催：信州大学 超精密技術センター

○善光寺バレーミニ学会（支部活性化事業）

日時：11月16日（水）

会場：国立長野工業高等専門学校

富山

○製作教室「レオナルド・ダ・ヴィンチのベアリングを作ろう！」

日時：8月6日（土） 午前の部 10:00～12:00、午後の部 13:00～15:00 ※変更の可能性

共催：富山県立大学

内容：レオナルド・ダ・ヴィンチの手稿から復元した木工模型の中から、「ピボットベアリング」のキット（非売品）を組み立てる。

指導：富山県立大学 神谷和秀氏

会場：富山県立大学 A-307 教室（本部棟3階）

対象者：小学生（低学年は保護者同伴）

定員：午前・午後ともに各10名

石川

○特別講演会（※支部総会とあわせて開催予定）

日時：10～11月頃

テーマ：メカトロニクス技術関連（電動バイク，パワーアシスト技術，ハイブリッドカーなど）

講師：2名（未定）

会場：金沢大学角間キャンパス

新潟

○特別講演会①

日時：未定

テーマ：「工作機械における省エネルギーのための具体的な取り組み」

講師1：森精機製作所 藤嶋誠氏

講師2：ファナック 講師未定

共催：長岡産業活性化協会 NAZE

会場：長岡市内

○特別講演会②

日時：未定

講師：未定

会場：新潟市内

○特別講演会③

日時：未定

講師：未定

テーマ：「ダイヤモンド工具の活用方法のノウハウ」

共催：長岡技術科学大学 工作センター

協力：長岡技術者協会

福井

未定

資料 8

■ 予算の縮小への対応策について

- ・ 近年、本部からの運営費が減少している。景気の状態等を考えても見通しは良くない。
 - 2007年 1,087,000円
 - 2008年 1,353,000円
 - 2009年 1,315,000円
 - 2010年 985,000円
 - 2011年 961,000円
- ・ 従来からの引当金は、現在、200万円弱（本部預かり）である。ここ数年、支部学術講演会用として30万円程度ずつ取り崩してきた。
- ・ 公益法人化により、今年度の全国大会の黒字（？）は支部会計に入るかどうか分からない。
- ・ 今年度は全国大会があり特別会計であるため、様子を見るにしても、長期的には、本部からの運営費減少にあわせて、予算を縮小する必要がある。
- ・ 支部の活動低下にならないよう、各県行事への10万円補助はできるかぎりキープしたい。

- ・ 2012年度より、次の対応をしてはどうか（提案）
 - A. 支部学術講演会の学生登壇者補助
博士課程の学生は不要。
距離によらず一律5000円にする。（現状は、隣県5000円、遠方県1万円／人、上限14万円）
 - B. 各県特別講演会のうち、支部長所在地は特別扱い（15万円）していたが、他と同じ扱い（10万円）にする。
 - C. 活性化事業（善光寺バレーミニ学会）の必要経費確認
現状10万円、数年前までは6万円

資料 9

■支部旅費規定について

＜背景＞

- ・公益法人化に伴い、源泉徴収などの会計手続きが厳しくなった。
- ・無報酬の会議等の旅費を支給する場合、源泉徴収しなくてよい。ただし、旅費規程がある場合。しかし、現状の支部には、旅費規定がない。
- ・およそ現状維持で、本部の旅費規定に準じた内規を作ってはどうか。

＜案＞

支部の旅費に関する内規

(目的)

第1条 この内規は、公益法人精密工学会北陸信越支部（以下「当支部」という）における交通費、日当および宿泊費の支給に関して規定するものである。

(適用範囲)

第2条 この規定は、下記に該当するものについて適用する。

- (1) 当支部で開催される幹事会の出席者の交通費および日当
- (2) 当支部で開催される講演会等の講師の交通費
- (3) 当支部より本部委員会等へ派遣される際の交通費（ただし、先方負担は除く）
- (4) その他、当支部において必要と認めた場合

(交通費)

第3条 交通費は、原則、目的地と該当者の所属機関の主要駅間の運賃を支給する。特に、空路を必要とする場合は、最寄の空港間の運賃を支給する。

(宿泊費)

第4条 宿泊をとまなう場合は、宿泊実費を支給する。

付則

この内規は平成23年2月1日に遡って施行する。

別表

交通費（中長距離）	所属機関と目的地の主要駅間の運賃 新幹線利用、特急料金 空路の場合は、最寄空港間の航空運賃（実費）
交通費（短距離）	所属機関と目的地の主要駅間の運賃（その時点での最安料金を基本とする）
宿泊費	やむを得ない場合にのみ支給する 実費を支給、ただし、上限支給額¥10,000とする
日当	1日につき¥1,000とする

以上

精密工学会北陸信越支部の技術賞、奨励賞の募集について

1. 北陸信越支部「技術賞」

〆切：平成23年7月31日(日)

*本部の技術賞〆切が5月27日(金)です。

対象業績は以下の通りです。

- (1) 精密機器に関する開発または研究。
- (2) 生産加工技術に関する開発または研究。
- (3) その他、上記(1)、(2)に準ずるもの。

支部賞受賞企業は、

- (1) 当該年度の支部講演会で表彰および受賞講演
- (2) 次年度の支部講演会講演論文集に無料広告を掲載
させていただきます。

*2010年度受賞企業「中村留精密工業(株)」

2. 北陸信越支部「奨励賞」

〆切：平成23年12月28日(水)

*本部の奨励賞〆切が5月27日(金)です。

対象者は以下の通りです。

- (1) 当該年度末において満40歳以下(本部は、満35歳以下)であること。
- (2) 筆頭著者となる論文が当該年度の12月まで過去2年間(本部は、過去3年間)に精密工学会誌、欧文誌に掲載されていること。

奨励賞受賞者は、

- (1) 当該年度の支部講演会で表彰および一般講演
を行って頂きます。

*2009年度受賞者「福井高専 岡田将人先生」

各県幹事の方におかれましては、積極的なアナウンスをお願いいたします。

2000年11月10日制定
2002年12月9日改正

精密工学会北陸信越支部奨励賞規定

1. 総 則

- 1-1 精密工学会北陸信越支部に、精密工学会北信越支部奨励賞を設ける（以下、奨励賞という）。
- 1-2 奨励賞は、精密工学の分野で優れた業績を上げた若手の研究者・技術者に対して、その精進と努力に報い、かつ将来の発展を期待して贈賞する。
- 1-3 贈賞の対象となる研究業績は、精密工学・工業の発展に寄与する研究とする。
- 1-4 受賞の対象となる者は、以下の項目をすべて満足すること。
 - (1) 北陸信越支部に所属している正会員、学生会員または賛助会員であること。
ただし、受賞の対象となる論文が北陸信越支部所属時に行ったものであれば、現在他支部に所属していても応募は妨げない。
 - (2) 当該年度末において満40歳以下であること。
 - (3) 筆頭著者となる論文が当該年度の12月まで過去2年間に精密工学会誌あるいは欧文誌(Journal of the International Societies for Precision Engineering and Nanotechnology)に掲載されていること。
 - (4) 本賞以外にこれまで公的褒賞を受けていない研究業績であること。
- 1-5 贈賞は原則として毎年数件以内とする。

2. 審査委員会

- 2-1 審査委員は幹事会構成員（支部長、副支部長、幹事、理事）とし、審査委員長は支部長がこれにあたる。
- 2-2 審査方法は「北陸信越支部奨励賞審査細則」に定める。
- 2-3 審査委員長は審査委員会を主催し、次年度の第1回幹事会にてこれを報告する。

3. 表 彰

- 3-1 表彰は原則として春季大会学術講演会会場にて行う。
- 3-2 表彰は賞状および記念品とする。

(2000年11月10日制定)
(2002年12月9日改正)

2000年11月10日制定

精密工学会北陸信越支部奨励賞審査細則

1. 当該年度12月末を締め切りとして、自薦・他薦により推薦者を募集する。
2. 審査委員は当該年度12月末までに推薦論文を庶務幹事に報告し、庶務幹事は自薦・他薦を含む全候補者リストを作成して審査委員に配布する。
3. 審査委員は直ちに審査を開始し、当該年度1月末までに審査を終え、庶務幹事に審査結果を報告する。
4. 審査委員は各自持ち点を10点とし、全推薦論文の中から上位3位までに持ち点を配分する。ただし、最高点を5点とする。
なお、審査にあたっては、〔1.独創性、2.工業的寄与とその波及効果、3.工学的寄与とその波及効果、4.努力度〕などを総合的に判断する。上記の評価項目には特に重みをつけず、均等に評価する。
5. 庶務幹事は審査結果を審査委員に報告し、合議の上、直ちに受賞者を決定する。
6. 表彰式は原則として当該年度末に行われる春季大会学術講演会会場にて行う。
7. 庶務幹事は審査経過を次年度第1回幹事会および支部総会にて報告する。

2011年度(第7回)精密工学会賞
受賞候補の公募について

2011年度(第7回)精密工学会賞の受賞候補者を自薦他薦により下記の要領にて募集いたします。

贈賞の趣旨

精密工学関連分野において研究、技術、または教育などに関する革新的な功績をあげた精密工学会会員(個人会員および賛助会員)の個人の功績に対し贈賞するものです。

受賞資格

- 1) 精密工学会個人会員
- 2) 2011年度精密工学会秋季大会に参加できること
- 3) 当該功績に対し他の公的褒賞を受けていないこと

贈賞件数

原則として毎年2件

賞

賞状および賞牌

推薦書

所定の用紙によります。

★ 所定用紙はこちら ([Word形式](#)) をダウンロードしてください。

賞規定および過去の受賞者

・ [賞規定](#) ・ [学会賞受賞記録](#)

推薦締切期日

平成23年5月27日(金)

推薦書送付先

精密工学会(102-0073 東京都千代田区九段北1-5-9 九段誠和ビル内、電話03-5226-5191)

審査および決定

精密工学会賞推薦委員会および審査委員会で推薦・審査し、精密工学会理事会で決定します。贈賞式は平成23年9月21日精密工学会秋季大会(金沢大学)にて行う予定です。

その他

受賞者には贈賞式の日にご講演を頂くこととなりますのであらかじめご了承ください。

閉じる

2011年度(第31回)精密工学会技術賞
受賞候補の公募について

2011年度(第31回)精密工学会技術賞の受賞候補者を下記のとおり募集いたします。

贈賞の趣旨

精密工学会技術賞は精密工学の領域で創造的業績をあげた研究者・技術者に対して、その精進と努力に報い、かつ将来の発展を期待して贈賞するものです。

贈賞の対象となる業績分野

- 1) 精密機器の開発
- 2) 生産加工技術に関する研究または開発
- 3) その他

受賞資格

- 1) 前項の業績をあげた研究者・技術者の個人または5名以内のグループ
- 2) 最近のもので既に公表され、あるいは近く公表される業績
- 3) ほかに公的褒賞を受けていない業績

贈賞件数

原則として毎年3件以内

賞

- 1) 賞状 受賞者全員
- 2) 賞牌 楯を連名者の所属ごとに各1

推薦書

- 1) 正1通、副4通として所定の用紙によります。
★ 所定用紙はこちら(Excel形式)をダウンロードしてください。
- 2) 参考資料はなるべく詳細なものを5部添付してください。

賞規定および過去の受賞者

・ [賞規定](#) ・ [技術賞受賞記録](#)

推薦締切期日

平成23年5月27日(金)

推薦書送付先

精密工学会(102-0073 東京都千代田区九段北1-5-9 九段誠和ビル内、電話03-5226-5191)

審査および決定

精密工学会技術賞等審査委員会で審査し、精密工学会理事会で決定します。贈賞式は平成23年9月21日精密工学会秋季大会(金沢大学)にて行う予定です。
審査に際し、実状聴取または現地調査を行う場合があります。あらかじめお含みおきください。

閉じる

**2011年度(第7回)精密工学会技術奨励賞
受賞候補の公募について**

2011年度(第7回)精密工学会技術奨励賞の受賞候補者を下記のとおり募集いたします。

贈賞の趣旨

精密工学分野において顕著な業績をあげた獨創性・将来性のある新進氣鋭の研究者、技術者に対し、その努力と精進に報いるとともに、旺盛な研究意欲を高揚させることを目的として贈賞するものです。

贈賞の対象となる成果

本賞の対象となる成果は、原則として2010年度を含む3年以内に本会の学術講演会等で公表されたものとする。

受賞資格

- 1) 候補者は、成果が公表された時点で、満35歳以下であり、過去において精密工学会研究奨励賞以外の本会の賞を受賞したことのない者とする。
- 2) 本会の他の賞と重複しないものとする。
- 3) チームとして応募することも可能です。ただし、贈賞の対象者はチーム内で貢献度の高い満35歳以下の者(複数可能)とする。

贈賞件数

原則として毎年5件以内

賞

賞状および賞牌

推薦書

- 1) 正1通、副3通として所定の用紙によります。
★ 所定用紙はこちら(Excel形式)をダウンロードしてください。
- 2) 参考資料はなるべく詳細なものを4部添付して下さい。

賞規定および過去の受賞者

・[賞規定](#) ・[技術奨励賞受賞記録](#)

推薦締切期日

平成23年5月27日(金)

推薦書送付先

精密工学会(102-0073 東京都千代田区九段北1-5-9 九段誠和ビル内、電話03-5226-5191)

審査および決定

精密工学会技術賞等審査委員会で審査し、精密工学会理事会で決定します。贈賞式は平成23年9月21日精密工学会秋季大会(金沢大学)にて行う予定です。

閉じる

(公益)社団法人精密工学会支部運営規程

(目的)

第1条 支部は、社団法人精密工学（以下「本学会」という。）定款第3条の目的を達成するため、同第4条の事業を行なうことにより、技術情報の発信等をつうじて社会の発展に寄与することをめざす本学会の活動を、地域レベルで活性化しかつ補完することを目的とする。

(支部の設置)

第2条 この規程は、本学会定款第48条の規定に基づき設置される支部の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(支部の区域)

第3条 本学会に、支部を設置する。

- 2 支部は北海道、東北、北陸・信越、東海、関西、中国・四国、九州の各支部とし、それぞれの地域の本学会会員をもって構成する。
- 3 名称は精密工学会〇〇支部という。
- 4 支部はその連絡先を定め、本学会に届ける。
- 5 新たに支部を設置するときは、当該地域に居住する本学会会員の20名以上の連記をもって理事会に申し出るものとする。
- 6 前項の申し出のあったときは、理事会の承認を得て、社員総会においてその認否を決する。

(役職)

第4条 支部の運営のため、以下の役職を置く。

- (1) 支部長1名
 - (2) 副支部長1名を原則とする。ただし、支部に属する正会員数が500名以上の場合、2名置くことができる。
 - (3) 幹事 若干名
 - (4) 庶務幹事1名、会計幹事1名
 - (5) 監事1名乃至2名
 - (6) 商議員 若干名
- 2 役職者の母体となる商議員の数については、その地域の正会員数に応じた上限数を理事会で定める。

(選出方法)

第5条 商議員は、支部所属の本学会正会員の互選によって選出する。

- 2 支部長、副支部長、幹事、監事等は、商議員の中から互選によって選出する。
- 3 庶務幹事、会計幹事は幹事の中から支部長が委嘱する。

(職務)

第6条 支部長は支部を代表し、会務を総括する。

- 2 副支部長は支部長を補佐し、支部長が事故のときはその職務を代行する。
- 3 庶務幹事は支部長を補佐し、庶務に関する日常の会務を処理する。
- 4 会計幹事は支部長を補佐し、会計に関する日常の会務を処理する。
- 5 幹事は支部長を補佐し、会務を処理する。
- 6 監事は支部の事業および会計を監査する。
- 7 商議員は重要な会務を商議する。

(任期)

第7条 役職者の任期は選任後1年とし、重任を妨げない。

- 2 役職者の中に欠員が生じたときは次点者で補う。ただし、補欠役職者の任期は前任者の残りの期間とする。

(会議及び決議)

第8条 商議員会議において諸般の報告、決算、予算の決議その他必要な事項を決議する。議決内容及びその経緯につき議事録を作成し保存する。

- 2 商議員会および幹事会は必要に応じて支部長が招集する。
- 3 商議員会および幹事会の決議は過半数の出席（委任状含む）と出席者の過半数の同意を必要とする。
- 4 支部長は、所属する精密工学会正会員による支部総会を招集し、支部の活動状況、運営状況について報告しなければならない。その開催回数は、毎年度1回以上とする。

(事業計画及び事業報告)

第9条 支部長は本学会の事業年度ごとに、事業計画書、収支予算書、事業報告書、収支決算書および支部役職者名簿を理事会が指定した期日までに理事会に提出し、理事会の承認を得なければならない。

- 2 支部の会計年度は、毎年2月1日に始まり、翌年1月31日に終了する。

第10条 支部の運営は、本学会から支給される支部活動運営費、支部講演会等事業の収入、および外部からの寄付金でまかなう。

- 2 支部活動運営費の支給額は理事会で審議し決定する。

- 3 支部は理事会の承認を得て、本学会に対する寄付を募ることが出来る。
- 4 前項により受け入れた寄付金は、支部の運営のため使用することが出来る。

(その他)

第12条 この規定に定める事項の他、支部について必要な事項は、理事会が定める。

附則

この規程は2010年3月17日より施行する。2010年1月理事会承認
尚、規程名の(公益)の括弧は、認定に伴いはずすこととする。